

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2774500835		
法人名	社会福祉法人 アムリタ		
事業所名	グループホームアムリタ		
所在地	大阪府泉佐野市長滝842番地1		
自己評価作成日	平成 22年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2774500835&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、デイサービスセンター、生活支援ハウス、ヘルパーステーション、附属診療所を併設しております。また、母体の社会医療法人栄公会では、病院、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、福祉用具貸与事業所、居宅介護支援事業所を運営しており、それぞれが連携することにより、当ホームでの入居中におけるケアはもとより、新入居や退居に際してもグループ全体で支援しています。ホームの運営においては、職員が意見を持ち寄り、また、入居者やご家族の希望を踏まえて年間事業計画を策定し、月次で進捗管理を行い年度末には報告書をまとめ、翌年の運営に活かす努力をしています。地域密着型サービスに位置付けられてからは、運営推進会議の場を活用するなどし、それまで以上に地元自治会との交流を深めています。日常の援助においては、少人数というグループホームの特性を活かし、個別外出の機会を設けるなど個々のニーズを大切にしています。なお、当ホームが中心となり「泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会」を設立し、市内の地域密着型サービス事業者全体の質向上のためのお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体として設立された社会福祉法人アムリタが運営するグループホームです。「住み慣れた地域や家庭での心豊かな生活を支援する」理念を実践しています。ホームは地域密着型サービス提供複合施設の3階に位置し、デイサービス利用者や生活支援ハウス入居者等との交流があります。職員は利用者・家族の希望や意見を大切に支援を行い、小さなことでも要望受付書に記載し職員間で話し合い実現させています。年に1~2回「行きたい所へ出かける」個別支援に取り組み、お墓参りや以前住んでおられた街の商店街などに出かけ、懐かしい思い出をしたり、買物を楽しまれたりしています。管理者は運営推進会議で相談しながら地域連携を大切にしながらホーム運営を進め、災害時避難場所として地域協力をしたり、アムリタ祭に近隣の方を招待するなどしています。法人の特性を生かした医療・保健・福祉の総合的なサービス提供に努めながら、市内全域の地域密着型サービス事業者連絡協議会の立ち上げや運営にも参画して地域福祉全体の質の向上に尽力しています。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の基本理念、基本方針を踏まえた上で、グループホーム特性を考慮した独自の理念を掲げ、その理念を念頭に年次事業計画を策定し、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し実践にむけて取り組んでいる。	「住み慣れた地域や家庭での心豊かな生活を支援します」という法人理念のもとに、ホーム理念では「家庭的な雰囲気」「居心地のいい空間」「その人の可能性を見出そう」「地域でイキイキ」を掲げ共有することで、地域密着型サービスを推進しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には散歩などの外出時に近隣の方と挨拶を交わし、また、地域町内会が主催する運動会や地域交流会サロン、盆踊り、秋祭り(だんじり祭)見物に積極的に参加している。なお、毎年10月に開催する「アムリタ祭」には地域住民の皆さんが多数参加し、交流を図っている。	ホームでは地域自治会への加入を申し込んでいます。町内会主催の行事には積極的に参加し、法人が開催する「アムリタ祭」には近隣から多くの方が参加しています。利用者との交流を目的としてお話しボランティアを依頼し、野菜の調理などを共に行いながら親交を深めています。運営推進会議で紹介して頂いた「地域交流サロン」にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟し、協議会を通じて泉佐野市社協地域包括支援センターと共同で一般市民を対象に「認知症高齢者をみんなで支える」講座を開催するなど、地域における認知症理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、利用者や家族も毎回交替で参加していただき、活発な意見交換を行うとともに、利用者や家族からの改善に向けた意見を全職員に周知し、サービスに活かせるよう取り組んでいる。</p>	<p>2カ月に1回の定期開催が定着しています。最近の会議ではホームから外部評価結果の説明を行い、地域委員の複数化や重度化された場合の支援方針、認知症を理解した居室設定について等意見交換を行っています。また、年間事業計画説明では全職員が参加して行うこと、レクリエーションやリハビリに力を入れていることなどを説明し、利用者・家族からの発言をはじめ活発な意見交換が行われています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議における行政関係者の参加に加えて、必要に応じて地域包括支援センターや市の職員との情報交換や交流を図っている。</p>	<p>市の担当者には外部評価結果を報告したり、何かあれば相談したり情報交換をしています。また、昨年は地域密着型サービス事業者連絡会設立の中心メンバーの一人として取り組む中で、何度も市へ相談に出向き助言を受けるなど、協力関係を築いています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として「身体拘束の排除の取組」に関して定めた理念、方針等があり、また、行動制限(身体拘束)に関する会議を開催し、職員の意識づけを行っている。	マニュアルを作成し、身体拘束や行動制限を行わない取り組みを進めています。「行動制限廃止会議」を定例化し、言葉での制限も行わないように職員間で話しあい実践しています。職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解していますが、エレベーターの鍵が終日オートロックされており、設備面での課題が残っています。	鍵をかけない暮らしの実現のために、今後も引き続き取り組むことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の人権研修において、高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関する内容を盛り込み学ぶとともに、日常業務においても注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修として、権利擁護、成年後見制度の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階から自宅訪問をしたり、希望に応じて担当の介護支援専門員を含めた説明を行い、納得をさせてから、書面による説明を経て、契約に移行している。退所時は入居者及び家族が方針を決定するための情報を提供するなど相談にのり、納得の上退所されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにおける日常的な要望の聞き取り、意見箱の設置、運営適正化委員会の連絡先の掲示に加えて、運営推進会議において、入居者及び家族が要望や不満を含めた意見が出せるように進行している。	利用者や家族は運営推進会議で活発に発言されています。また、日常的に意見や要望を出されており、発言しやすい環境が整えられています。職員は聴取した意見を要望受付書や苦情受付書に記載し、職員間で共有し改善につなげています。年に2回家族交流会を開催し、意見反映に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議で意見を聞くとともに、年次の事業計画策定にあたっては職員の意見を聞きながら立案するとともに、担当制で計画を遂行し、運営参画意識を持ってもらっている。	管理者は職員間の交流を大切にして意見を出しやすい環境作りに努めています。業務改善に関する委員会等はそれぞれが分担し、責任を持つことで意欲的に取り組めるようにしています。小数意見については会議で取り上げ、一致点を見出しながら実現できるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度導入により、職員の努力が待遇に反映される仕組みとなっている。また、内部・外部研修参加の機会を設け、職員個々のスキルアップなど向上心に応えている。なお、代表者は近隣ホームの待遇面の情報収集を行い条件整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度における人事考課表の活用や個別面接等において職員個々の力量を把握し、研修参加の機会を与えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会の設立に中心となって参画するとともに、その活動が事業者間の質の向上に繋がるよう意見を述べている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時より対話の機会を設け、本人の心身の状態をみながら傾聴し、本人の思いを汲み取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を行い、介護者の思い悩んでいることや、要望に耳を傾け、質問等に納得するまで説明している。希望に応じ説明時担当の介護支援専門員にも参加してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安易にホームの入居を進めるのではなく、相談内容を踏まえてニーズを探り、必要に応じて自法人及びグループ法人が運営する各種介護施設、在宅介護サービス並びに他の事業所、公的なサービスなどと連携し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできること、できないことを個別に把握し、入居者主体で達成感を感じていただける支援を心がけている。入居者と共に行うことで、本人から学ぶ場面も多く、お互いが支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居契約時にホームに預けっぱなしにならないことをお願いするとともに、日常生活支援において、また、行事、医療機関受診などで可能な限りにの家族協力を要請している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係維持のため手紙や電話の援助を行うとともに、行きたい所個別支援では、家族に相談、協力していただき、馴染みの場所に出掛けたり、近所の人と再会できる機会を作っている。また併設の特養、デイの知人とは行き来している関係である。	年に1～2回、利用者の希望を聞いてお墓参りや住み慣れた場所、商店街などへ出かける個別支援をしています。また、電話をかけたり、手紙を出したり、自筆での年賀状書きを手伝うなどの支援を行い、馴染みの関係を大切にしています。また、かかりつけ医師への受診や、併設されているデイサービス利用者との交流等を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所期間、性格等を勘案し入居者同士が和気あいあいと生活できるように配慮するとともに、特定の入所者が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院となった方に対しては、時々お見舞いに行き今後の方向性についての相談にのる等、できる限りの支援を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの行事後はヒヤリングを実施し、想いや意向を引き出して、次回の企画に活かせるように取り組んでいる。	何気ない日常会話で出される希望や思い、表情等を大切に、要望受付書等に記載し職員間で討議し、利用者の思いが実現するように取り組んでいます。また、年間行事などは計画の段階で意見を聞くことはもちろんですが、行事を楽しんでおられる場でも感想等を聴取し、次回に向けて意見反映をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前から情報収集に努め、入居後も本人や家族の会話の中から情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録を個別に記録し日々観察している。また、入居者の心身の変化については早期発見に努め、気づきを申し送るなど、職員全員で情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきや、普段からの状況について職員間で話し合い、また、日常生活支援場面において、本人、家族の要望を聞きとり介護計画を作成している。今後は3ヶ月に1度のケアカンファレンスに家族が参加できる日程調整を行っていく。	家族や利用者の意見を聴取した上でケアカンファレンス、グループホーム会議、日常の申し送り時に職員間で話し合い介護計画書を作成しています。計画書は3ヵ月毎に見直しを行い、アセスメント、モニタリング記録を残しています。計画書は家族へ説明してサイン、押印をしてもらっています。	ホームでは「今後は3ヶ月に1度のケアカンファレンスに、家族が参加できるように日程調整を行っていく」方針を明確にしています。家族がケアカンファレンスに積極的に参加されることで、利用者の意見がより細やかに反映されることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過以外にも日々の申し送りにより、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。グループホーム会議においてもケア内容についての話し合いを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院の医師による受診体制の整備を行うとともに、単独事業所では難しいような比較的規模の大きい行事を全体で企画し、参加できる機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に活用していた社会資源を把握し、個別外出支援の際に訪問するなど、生活の継続性を尊重している。なお、ホームとしては地域ボランティアや慰問等の受入れを行い、入居者の楽しみの支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している方もあり、本人や家族と相談の上、受診や往診先を決めている。かかりつけ医のかかわりが薄い入居者へは、特養附属診療所や協力病院でフォローしている。	本人や家族の希望に添ってかかりつけ医師を決めています。入居前からの、かかりつけ医療機関を受診されている利用者も複数名おられ、家族が受診同伴されています。家族が同伴できない場合にはホームで支援しています。母体病院医師の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホーム並びに附属診療所の看護師の応援体制を整えており、急変時のみならず普段から相談、応援してもらえる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が早期退院できるように医療機関との情報交換を行うとともに、面会に伺うなど本人、家族、病院関係者との情報共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明時にホームの方針を伝えるとともに、入居後は家族交流会や運営推進会議など家族との意見交換の場において、方針を繰り返し説明し理解を得ている。なお、実際に入居者が重度化した場合は、医療機関や他の施設入所サービス事業者など関係機関と連携し、不安を取り除くよう支援している。	重度化した場合については、終末支援が行えないことを入居説明時から明確にしています。入居後も重度化した場合の行き先を利用者・家族が相談して決められ、事前に入居申し込みをしておかれるように助言しています。重度化した場合には入院されるか、特養に入居されるか、一人ひとりが適切な場所に落ち着かれるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修の一環として、定期的に泉佐野市消防署職員を講師に招き、心肺蘇生等について学んでいる。不参加の職員にも資料等により伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物全体が地域住民の避難所的な位置づけとなっており、地域防災にも貢献している。年2回避難訓練を行なっている。	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行い、そのうち1回は夜間を想定した訓練をしています。利用者も参加し職員の指示に従って動かれています。消防署へのオンコールシステムやスプリンクラーを設置し、一時避難場所としては広々としたテラスを活用することもできます。災害時に備えて水や軽食、レトルト食品、カセットガスコンロなどを備蓄しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を人生の先輩として尊重し、なじみの関係であっても言葉遣いや対応には誇りやプライバシーを損ねることのないように徹底している。入職時に秘密保持に関する誓約書を提出していただいている。また毎月開催する行動制限廃止会議では職員の行動、言葉遣いについての話し合いをしている。	一人ひとりの利用者を尊重し、誇りやプライドを損ねないような対応をしています。また、職員の言動については不適切な言葉や表現を行わないように徹底しています。利用者のおむつやパッドなどは目につかない場所に保管し、使用については分からないように配慮しています。また、職員には個人情報についての守秘義務を徹底し、誓約書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	遠足、外食、慰問、イベントの参加の意向はご自身に決めて頂いている。 自己決定ができるようコミュニケーションを大事にし、自己決定できる場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、居室にて過ごしたい時などは過ごしてもらい、調和を図りながら一人ひとりの思いに配慮している。行事の参加においても希望を尊重し不参加者が出た場合を想定した職員配置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月の訪問美容時は職員も付き添い好みの長さ、髪型にしている。 入浴の準備も利用者と職員とが一緒に行い、衣服を選べるよう支援している。特養の訪問化粧ボランティアにも参加し、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事片付け等利用者の状況に応じて参加できるように、職員と一緒に行っている。また職員も一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。	管理栄養士が作成した献立に添って法人厨房から食材が運ばれてきます。利用者はその献立を好まれ、献立に添って下ごしらえ、調理、盛り付けなどの得意な分野で力を発揮し活躍されています。職員は同じ食事を一緒に食べながら、感想を出し合い楽しい時間を過ごしています。また、回転寿司などの外食を楽しむ支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を把握し記録をとっている。栄養バランスにおいても併設特養の管理栄養士作成のメニューを基本的に調理している。特に食事量が低下した際には、特養の管理栄養士、看護師のフォローを得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた、食後の口腔ケアの声掛け援助を行い、就寝時入れ歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一律にトイレ誘導を行うのではなく、個々の排泄パターンを理解し、声掛け、誘導している。	自立されている利用者もおられますが、多くは失敗を恐れてリハビリパンツやパッド等を使用しています。職員は時間を見てそっと声かけをしたり、トイレに誘導するなど、できるだけオムツ類を使わない支援をしています。就寝前にパッドの交換を勧めたり、失禁された場合などは、清拭やシャワーをしたりして清潔保持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬のみに頼らずに自然に排便ができるよう水分量を確認するとともに、乳酸食品を摂取したり、トイレ時腹部マッサージをするなど、自尊心に配慮しながら、個々の状態に応じた排泄ケアを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を週何回と一律に決めるのではなく、本人の希望、家族の意見を確認した上で、できる限り個々の希望に応じた入浴を楽しめる支援を心掛けている。	週4回お風呂を準備して希望に添った入浴支援をしています。また希望があればそれ以外の日でも入浴することができます。利用者は週2回～4回と1人ひとりの希望に添って入浴をしています。入浴を好まれない場合でも職員がタイミングを見計らって何度も声かけをして、気持ちよく入浴できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	希望に応じて昼寝をしたり、夜 間不眠で眠れない時は無理に入 眠を促すのではなく話を聞いたり 、一緒に歩いたりするなど個々 に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	一人ひとりの服薬ファイルを作 成し把握している。また服薬に おいても便秘の状態に応じて量 を調整するなど、服薬しやすい ように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	家族の協力や、入居者本人との 普段の会話などにより生活歴を 把握し、個々の能力に応じて役 割を担っていただいている。ま た入居者のニーズにあった「行 きたい所個別支援」を実施して いる。なお、入居者と職員協働 のおやつづくり、記念日(誕生 日)会も予定している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るように支援している	入居者並びに家族からの情報や コミュニケーションの中から希 望を聞き「行きたい所個別支 援」を企画し、家族、近所の方 に同行協力を得ている。また、 季節毎の遠足やお花見、外食 なども実施している。なお、地 域の方にも協力していただき、 地域の行事にも積極的に参加し ている。	家族と外出する機会を含めさま ざまな理由での外出を合わせ ると利用者は月に2～3回程度 の外出をされている記録があ ります。また、それ以外にも記 録に残らない「ちょっと外へ出 る」散歩もしています。利用者 が外出を好まれない場合や、 希望を出されない場合には外 出の機会が少ない傾向があり ます。	職員は利用者が希望を出され ない場合でも外へ出て気分転 換するなど、外出の機会を増 やす方針で取り組みを進めて います。近くの神社を散歩し たり、買物をしたり、わずかな 時間でも外出することは心身 の健康に効果的と認識してい ます。今後は短時間の外出でも 記録に残し、介護計画と連動 した支援として評価することが 期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭を管理している方にも、使用時は自分で支払うことができるように職員が支援している。また、個人管理の方もあり、個々の能力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状は毎年本人の直筆となるように支援するとともに、電話による家族や知人と連絡についても援助している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備により全館温度、湿度管理を行っている。ホーム内は開放的でありホーム内で過ごしていても外の光を感じられる設計である。また食事の時は音楽を流したり、季節感の作品を展示したりと工夫をしている。	居室を外側に配置し、中央は吹き抜けのガラス張りにしています。吹き抜けの横に食堂兼居間があり、採光も良く階下の中庭が見えます。ホームが3階とは感じさせないような広々としたテラスが南側に広がり、樹木や草花が植えられ家庭菜園も楽しむことができます。隣接する生活支援ハウスとはドア一つで行き来ができる開放感もあります。落ち着いたおしゃれな色調の居室ドアや廊下など、調和の取れた共有空間が設定され、ソファや椅子を各所に置いてくつろげるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の観葉植物をながめ、水やりをし独りでのんびりくつろいだり、入居者同士が囲んで話しができるように、リビングにはソファを配置している。またトイレ前には、他者が使用していても座って待てるように、ソファを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品を置いたり、自身の作品を飾ったり、その人の生活習慣に合わせた工夫をしている。なお、認知症が重度なため、調度品などを置くことにリスクのある入居者には家族と相談し居室を片付けている入居者もいる。	窓からの眺めが良く景観が楽しめる居室です。利用者は馴染みの調度品や家具、湯茶セットなどを揃えて写真や絵画を飾り落ち着けるように工夫されています。利用者の状況に合わせたシンプルな部屋、いろいろな家具を揃えた生活感あふれる部屋など、一人ひとりの個性を活かした居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の部屋の表示については文字のみならず、絵などによりわかりやすくしている。また、バリアフリーにすることで下肢筋力が低下された方にも、極力自立した生活が送ることができるようになっていく。		